

新九郎通信



発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

師走を迎えました。今年も色々な作品や作家さんに触れることのできた良い1年でした。

今年の小田原のアートを締めくくる好企画が12月5日まで「清閑亭」で行われています。女子美の院生による「日々是美」展は、若い作家の感性が素晴らしい展示です。建物を生かしたインスタレーションは 現代アートを身近に楽しむことのできるいい機会。是非多くの方に観に行ってください。新九郎では年末恒例のアートフェスティバルがあります。作家を知ることは作品を身近に感じる事の出来る近道です。お気軽に音楽とアート、作家とのおしゃべりを楽しみにご参加ください。今年も1年間 新九郎通信をお読みいただきありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。



新九郎 12月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ	11/20(土)~12/5(日) 宮塚春美展	すどう美術館 0465-36-0740
 12/3(金)-5(日) 第四回悦会展	今回もバラエティに富んだ 楽しい書展となりました。 30名30点の作品	12/11(土)~26(日) 岡村朝子 作陶展	すどう美術館 0465-36-0740
 12/8(水)-13(月) 第1回櫛会 木版画展	和を持って木版画を楽しむ 会 13名50点の作品	12/1(水)~31(金) 驢馬展	はげ八鯨 0465-22-0945
 12/15(水)-20(月) 新九郎アートフェ スティバル 2010	小田原近郊在住の現代アー ティスト 10 人による新九郎 恒例の納めの展覧会(裏面に 作家紹介)	11/30(火)~12/5(日) 真鶴スケッチ同好会第五回展	情報センター真鶴1階 真鶴駅より徒歩5分
 12/17(金) 新九郎デッサン会	18:15~20:45 コスチューム、固定ポーズ 会費 1500円	12/15(水)~20(月) あざみ会紫組手作り作品展	アオキ画廊1階 0465-22-0825
 12月18日(土) クリスマスコンサ ート&パーティー	ヴァイオリン、ギター、 ボーカル 18:00~20:00 参加費 1500円	11/27(土)~12/5(日) 現代アート展「日々是美」	清閑亭 0465-22-2834
 12/22(水)-26(日) 窪田真規展 -色が途絶えた世界 の中できみが、待つ てる-	サヨナラは別れのコトバ ・・・「(約束だよ)色が途絶えた世界の中で、きみが待ってる。」 不定期に送られてくる窪田先生からの詩は、A4版の縦、真中にきちんと納められた一行の余白の美しい詩。手元に届いた最終の詩が、・・・「(約束だよ)・・・」でした。妻の京子さんが編んだ大好きだったセーターに、お気に入りの藍のジャケットを羽織り、山本洋子の句集を持って突然、旅立たれてしまわれました。2008年、新九郎での個展「オポチュニストの笑い・世界は穴だらけ」は、今でも、語り続けられています。周囲の人に優しく、自分の事より、いつも人の事を心配され、本音の言葉をかけ続け、何とか伝えようとされていました。格好良すぎるサヨナラで、人生を中断させてしまった窪田先生。先生が残された未発表の作品を展示します。作品を通して先生に出会える場となることでしょうか。住谷美知江	11/20(土)~12/12(日) 新収蔵資料展(井上三綱5点)	松永記念館本館 0465-22-3635
		11/20(土)~1/23(日) 大正おだわら散歩・小暮次郎画	松永記念館別館 0465-22-3635
		12/7(火)~12(日) 松浦延年展	丹沢美術館 0463-83-9550
		12/7(火)~12(日) 小さなスケッチブックの一人展	湯河原町立図書館 3F 0465-63-4155
		11/27(土)~12/6(日) 細川護光展 焼物	うつわ菜の花 0465-24-7020
		12/11(土)~20(月) 安藤郁子展 焼物	うつわ菜の花 0465-24-7020
		12/12(日) 陶芸広場(友の会・鈴木隆出品)	茅ヶ崎館 0467-82-2003

ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

石橋聖肖(いしばしまさのり、1965-)は、精緻な世界に留まりがちな工芸作家のなかで異彩を放っています。技術は自分の世界観を表現するために奉仕し、細工のいやらしさがありません。茅ヶ崎に生れ、東京芸術大学の工芸科を卒業。近年その広がりのある作品が評価されています。どこかワイエスを彷彿とさせる家には、むしろ人の温もりがあります。平塚や茅ヶ崎、二宮には金工作家が多いですが、工芸は土地と生活に根ざして、地元で親しまれ使われていくべきと思います。それでこそはじめて本当の文化が育つのではないのでしょうか。

高瀬省三・石橋聖肖展 11/9内~12/23木祝





【飯室哲也】
最も影響を受けた画家の一人ゴ一ギャンは「我々は何処から来たのか、我々は何者なのか、我々は何処に行くのか」と大作に記しています。今回は最近描いている油彩画やアクリル画の中から「ゴ一ギャン追想」シリーズを展示します。



【柿沼朋実】
子供が2年前に生まれ、制作にかける時間は減りましたが、その分、絵と向き合う時間が密になり、今までより集中して作品が作れる気がします。この年末のお忙しい中、来てくださる方がひと時でもくつろげる時間を作れば幸いです。動物を題材にした作品を通じて、「和み」の空間を作ることが出来ればと思っています。



【高橋雅和】
わたしの日々の制作は、あらゆる混沌のなかに、何も見えず見えず 然しあらゆるものに耳をそばだて聞いているそれは貝殻の内に宿る束の間の震える結晶体なのだ。終ぞ其の完成は時間外の外郭をたどるようだが、未知なるものへの憧憬を抱く鱗(ひび)のように、実しやかに 未完の希望のものでありたいと念じている。



【松浦延年】
この作品は液状の絵の具を画面に流し込み硬質な筆で描き続けます。筆跡が消え、緊張感のある平面が時間を吸収し生成されてきます。筆を使い筆を超え、そんな描法に魅力を感じます。又、新たな出会いがあれば幸いです。



【伊志良杏子】
鍛金という技法で、主に銅や真鍮を使い作品を作っています。小さい中に、広い世界や空を感じられる様な作品を作れたらと思っています。



【今村綾】
情景から物の輪郭や色の境界線をたどり、実在するフォルムに乗って線を歩ませる。それは画面と自分との距離を一定に保つ手段である。主観を切り離すことで、作品をひとつの風景のような存在にしたいと思っている。



【グレゴリーフレダス】
早川、英語で早い川、火山湖の芦ノ湖から小田原西側の海へ流れています。その近くに住みながら20年以上前からデッサンや絵を描くのにいつも名案を思い浮かべさせています。2年前から早川港で写真としての色や線を探っています。今回の展覧会においては50以上の写真の中から選んだものです。



【二宮宗子】
作品に接した方に、故郷に還ったような安らぎと、美しい空を眺めた時のように心が解き放たれる瞬間を同時に感じられるような作品が描きたいと日々考えて制作にあっています。



【宮島永太良】
10月からスタートしたアニメ「マルタの冒険」のキャラクターを中心に、宮島永太良の過去の作品を複製版画で見に行く。マルタを今の作者とすれば、自身の過去の作品を冒険のように見ていくことで、新たな発見を得たい。



【鈴木隆】
今回は、ずっと追いつけている貫入青釉の作品と、陶器、磁器のランプシェード等を出品します。青釉は単純な釉薬ですが焼成が難しくなかなか安定してくれません。常に自分の狙った表情や色に近づける為に様々なテストを繰り返すのですが、思う様に焼き上がるにはまだまだ長い道のりが続きそうです。

パリだより 横井山 泰



11月2日から降り始めた雨は、2週間続いた。街路樹の葉は流され、空が広がった。季節は確実に冬に向かっていて、日没も毎日に早くなる。市立近代美術館のバスティア展は、平日でも1時間待ちの列が出来る。年代毎に進む展示からは破滅的な人生と、身を削って描いた様子が窺える。一方、画面は「それでいいんだよ」と観客の人生を肯定しているように観えた。日本でもブームが来るのだろう。ベルサイユの村上展は否定的な報道とは逆に、絢爛な空間に調和していた。歴史的建物や巨匠の作品と並列して現代美術を設置する企画は多く行われているようだ。久しぶりに快晴の夕暮れ、コンコルド広場には冬の風物詩だという巨大な観覧車が現れた。エッフェル塔の左手に夕日が沈んでいく。極端に高い建物が無いからなのか？真っ平なヨーロッパ大平原のせいなのか？夕焼けが目線より下から照って来るような妙な錯覚をした。クリスマスのイルミネーションも始まった。



11月の事
清閑亭で「日々是美」が始まった。女子美術大学大学院洋画専攻領域の山内ゼミの学生による企画展である。ゼミの担当准教授である山内隆氏は首都圏の空き校舎・廃屋等の会場探しに奔走し、院1年の頃より彫刻用の木材を調達している縁で、山口製材さんに相談した。片浦中、老樺荘、清閑亭と見て歩き紆余曲折の後、清閑亭に決まったのである。オープニングで山口さん、新聞記者、行政の方と美術談義になり、山口さんは杉本博司の小田原芸術文化施設は直島、金沢21世紀美術館と併せ世界から注目されるものになるだろう。又下見をした片浦中は美術館にすれば素晴らしいものになるだろう。記者氏は学校をアーツ千代田3331のように画廊やアトリエ、アートやものづくりに携わる個人や会社、団体の事務所を入れ、地域の交流拠点にする例もあると話す。しかし行政の方によると教育目的の施設であり他の分野への転用はできないのだそうである。小田原芸

術文化施設をきっかけに、熱海MOA美術館に続く東洋のリヴィエラと謳われる片浦のビーチラインにアート施設が集積してくれば、まさに魅力あるゾーンになる筈であるのだが。
小田原美術館フォーラムはおだわらミュージアムプロジェクトと名称を変え新たに出発する。具体的には、①現在ある施設を有効利用し展示場にする。②美術活動に専心できる学芸員の採用。③作品を良い状態で保管できる収蔵庫の整備。の3つの実現を図りたい。時代は物の豊かさから心の豊かさへと価値観が移行しつつあります。かつての日本では茶の湯や能、生け花などから波及した文化産業が経済の活力維持の礎となってきました。アートにより文化の興隆を計ることは地域経済の活性化につながるものであります。文化興隆を市の重点施策と位置づけることを願います。(⊕)